



平成22年度「さわやか」活動報告

項目	21年度	22年度
登録ボランティア数	64名	61名
登録車両数	63台	60台
登録利用者数	45名	51名
送迎回数	2688回	2707回

(八幡・小倉事業所合算 平成23年3月31日現在)

福祉に対する風当たりが

厳しい状況が続く

第八回「さわやか」定期総会

六月五日(日)午前十一時十五分より、北九州市総合福祉センター(小倉北区)六階会議室で、特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」第八回定期総会が開催されました。

岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に加峯理事と貞谷事務局長が選任され、午前十一時八分現在、総正会員数二十七名、出席者数二十二名(うち書面表決者七名)、欠席者数五名で、定款に基づきこの総会は成

立する旨、報告がありました。続いて山田理事長が、「『さわやか』が送迎事業を継続出来ているのも全腎協、福腎協、そして北九州ブロック(腎友会)の皆様の後押しがあったからです。福祉有償運送も皆様と声をあげていった結果、新しい法律

平成二十三年度

「さわやか」活動方針

I・全腎協・福腎協・北九州ブロックと協働して運動します。
 II・北九州市福祉有償運送運営協議会の協議を重視し、その方針に従って行動します。
 III・九州三県の通院送迎事業所との連携及び情報交換を行います。
 IV・北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)の会員として他の障害者団体との対市懇談会や啓発及び交流、学習会等に積極的に参加し、情報交換を行います。
 V・東京ハンディキャプの会員として、全国の移送サ

ができ、安心して送迎が出来るようになりました。今も福祉に対する風当たりは厳しい状況が続いていますが、今後も皆様と共に声をあげていかなければいけないと思います」と挨拶しました。



- I・ビス等の状況や情報を得、お互いに情報交換をします。
- VI・NPO法人北九州小規模連の学習会や定例会等に参加します。
- VII・その他
 - ①「さわやか」新聞を毎月発行します。
 - ②「さわやか」主催のボランティア研修交流会、及び学習会を開催します。
 - ③送迎ボランティア及び、利用者を募集します。
 - ④三県合同研修会(佐賀県主催11月20日)に参加します。
 - ⑤福祉有償運送検討会や意見交換会に参加します。

第40回 ボランティア研修会

日時 7月10日(日)
 10時～12時
 場所 北九州パレス
 写真室

講演 身近な省エネについて
 講師 九州電力株式会社
 八幡営業所
 計画グループ
 副長 久末 庄一郎 氏

議長には、福腎協の森満義彦副会長が選任されました。また議事録署名名人に、山田理事長と梶原常務理事が入りました。初めに高原事務局長より情勢報告があり、満場一致で採択されました。次に貞谷事務局長より平成二十二年度活動報告があり、採択されました。次に梶原常務理事より平成二十二年度収支決算報告があり、小田監事より会計監査報告が行われました。その後、山田理事長より平成二十三年度活動方針(案)が提案され承認されました。

次に、梶原常務理事より平成二十三年度事業計画(案)及び収支予算(案)の提案があり、承認されました。以上で、総会の議案全ての審議を終了したので、森満副会長は、解任の挨拶を行い、岡副理事長が閉会を宣し、総会は午後十二時に閉会しました。



「さわやか」定期総会の様子



地域とのつながりを強化を

していかなければいけない

北九州市障害福祉団体連絡協議会（障団連）

第14回定期総会に参加

六月十一日（土）午前九時三十分から、ウエルとばた多目的ホールで北九州市障害福祉団体連絡協議会（障団連）第十四回定期総会が行われました。

「さわやか」から四名が参加しました。

『人権』という流れが

大きく加速している

初めに中島事務局次長から開会宣言があり、北原守会長より、「昨年度は、新たに出来た人権部会の活動が目立った年だったと思います。国会における障害者制度の改革の論議等を踏まえて、『人権』という流れが大きく加速していると思



います。

今年度もまた、『人権』という問題を大きなテーマとして、障団連の活動を進めていこうと思います。また、これからの私たちは、地域とのつながりを強化をしていかなければいけないと思います。

また北九州市の相談支援体制についての検討会の中に初めて知的障害のある当事者が入ることになりました。北九州市の歴史の中でも初めてのことだと思います。

障害のある人が表に

出る環境づくりが大事

そういう意味では大変画期的なことです。障害当事者の人たちが表に出て行く環境づくりが大事であり、それが障団連の役割であると思います。」

と挨拶がありました。続いて、北九州市議会西豊副議長、北九州市社会福祉協議会渡邊良治総務部長より、来賓祝辞がありました。

議長に福岡県脊髄損傷者連合会北九州市支部の白川長廣氏が選任され、議事録署名人に二名が選任されました。

障団連事務局の赤嶺氏より、



昨年年度の北九州市福祉有償運送検討会において、地域包括センターと実施団体の合同で「北九州市内の福祉有償運送実施団体一覧」と「福祉有償運送のご案内」の冊子を作成しました。

この冊子は、「さわやか」の事務局や、各区の福祉センター、地域包括センター、ウエルとばたなどに、置かれています。



北橋健治市長

加盟団体三十九団体、出席団体二十二団体、委任団体十三団体、欠席団体四団体で、この総会は成立するとの報告がありました。

その後、審議に入り、全ての議事が、満場一致をもって承認されました。

ネットワークの重要な

役割を果たしている

また、公務の都合で総会の途中に駆け付けていただいた北九州市の北橋健治市長より、「市内の障害福祉団体の皆様が、本市の福祉の発展のためにご尽力いただいております、まさに本市の障害者福祉を前進させるネットワークの重要な役割を果たしていただいております。また、障害者福祉の向上をもとより、多くの市民の方々に啓発という事がノーマライゼーションのためにも大切です。

いろいろなところで皆様に力強いご活躍をいただいている事を厚くお礼を申し上げます。

上げます。また、北原会長が全日本手をつなぐ育成会の理事長に就任され、これまでの活躍に改めて敬意を賞します。たくさんの方の教訓を

今後活かす

北九州市でも障害者支援計画の次期の計画を立てる段階になっており、当事者の声に耳を傾けて、より良い計画になるように、皆さまのいろいろな意見をいただきたいと思ひます。

今回の東日本大震災においても、その悲惨な状況の中で皆さんの教訓が生まれ、それを今後の災害対策などに活かして、より良い北九州市にしていきたい」と挨拶がありました。

その後の研修会として、北九州市保健福祉局障害福祉課企画調整係長南秀幸氏より、「今後の障害福祉施策について」と題して、『障害者自立支援法一部改正と（次期）北九州市障害者支援計画について』の話がありました。

総会及び研修会は、午後十二時に終了しました。

